



第2回まちづくり懇談会を開催

「フェアフィールド市と 荳崎市の交流について」



フェアフィールド市交換留学生と荳崎市の学生の皆さん

前列向かって左側から：Robert Gilbert（ロバート・ギルバート）／横内公明荳崎市長
Mary Chilcote（マリー・チルクート：引率者）／Jordan Daniels（ジョーダン・ダニエルズ）
後列向かって左側から：戸島南那さん／堀田瑞稀さん／Parker O' Neill（パーカー・オニール）
Liana Solis（リアナ・ソリス）／Hannah (Skai) Qvistgaard（ハンナ・クイスガード）

本日の懇談会は、フェアフィールド市の学生の皆さんと、一昨年にフェアフィールド市へ留学経験のある荳崎市の学生の皆さんで、荳崎市の印象や今後の交流のあり方などを意見交換していただきま

企画財政課長：

このあと、皆さんからの感想やご意見を順次伺っていきますが、残り1週間を楽しく、有意義にお過ごしください。

市長：おはようございます。フェアフィールド市からの留学生の皆様は、滞在スケジュールの3分の2が経過したところですが、皆さんの元気な姿を拝見できて、とてもうれしく思います。



横内公明市長

7月24日（火）、市役所にて「フェアフィールド市と荳崎市の交流について」をテーマに、来荳中のフェアフィールド市交換留学生と荳崎市の学生の皆さんが、市長と意見交換を行いました。



ロバート・ギルバートさん

日本のアニメとか、洗練された文化にとっても興味があり

ロバート・ギルバート：

私は、過去に日本語の勉強をしたことがあって、将来的には、日本に関わることができると参加しました。

ジョーダン・ダニエルズ：

6月に高校を卒業しました。私は、過去に日本語の勉強をしたことがあって、将来的には、日本に関わることができると参加しました。

今回の交換留学生の引率者として参加しましたマリー・チルクートです。

私は、日本には以前からぜひ一度行ってみたいと思っていましたし、ホームステイも経験してみたいと思っていました。そして、一般の旅行者としてではなく、もっと深く日本の文化や風習に触れたいと思い、参加させていただきました。



堀田瑞稀さん

ました。マリー・チルコト先生も言っていたように、私も旅行者としてではなく、ホームステイをしながら、本当の日本の文化に触れたり、経験したいと考えて参加しました。

堀田瑞稀：
私がフェアフィールドに留学したのは中学2年生の時でした。そのときは色々なところに行ったり見たりしましたが、結構忙しくて、集中的に海外文化を学ぶところまではいけませんでした。でも、日本に戻ってきて、あらためて海外を見てみると、いかに日本が小さな国であるかを感じることができました。

今もフェアフィールド市からの交換留学生をホームステイで受け入れることによって、確実に語学力が向上する気がしますし、高校生活にも何かと役立っていますので、参加して本当に良かったと思います。



戸島南那さん

戸島南那：
私が交換留学をしたのは高校1年生の時でした。中学生のころからこの制度のことは知っていましたが、興味もありませんでしたが、応募する勇氣がなくなってさらに英語を学ぶようになって、実際に海外に行ってみて、自分の英語力を試してみたいと思うようになりました。

そのときは何を言っているのかもよくわからず、また自分が伝えたいことも思うように言えなかったりしましたが、その後、フェアフィールドの学生がこちらにきてくれるようになって、あらためて話してみると、当時は聞き取れなかったこともだいたい理解できるようになっていて、うれしく思いました。

これからももっと英語を勉強して、よりフランクに会話ができるいいなと考えています。



リアナ・ソリスさん

パーカー・オニール：
母親が埼玉県出身で、もと日本の文化にとても興味がありましたので、今回のプログラムに参加しました。

ハンナ・クイスガード：
小さいころから日本の文化にとても興味がありました。

アメリカにばかりいては本当の日本の文化がわからないので、今回参加しました。また、ホームステイをすることで、単に旅行をするよりもたくさんの人々に出会うことができるとし、家族や友人とも知り合うことができるので、今回のプログラムに参加することは、高校生活の総仕上げみたいな気持ちで参加しました。

リアナ・ソリス：
日本の文化にとても興味があることは言うまでもなく、外国の違う言葉を使う国に行くと、お互いの文化や風習の違いを知ることがとてもおもしろいと思っていました。もちろん同じ文化もあるでしょう。



パーカー・オニールさん

うが。いずれにしても旅行するだけでは知ることのできない、様々な体験ができることを楽しみにしてきました。

アメリカと日本の違いは？
市長：
皆さんの自己紹介を伺って、日本の文化にたいへん興味をもたれていることがわかりました。

私もフェアフィールド市を表敬訪問した際に、アメリカの学校を視察して、日本とアメリカの教育の仕方が全然違うと感じたわけですが、皆さんは蕪崎の学校を訪問してどのように感じましたか？

ロバート・ギルバート：
アメリカの学校では部活動というものがないので、授業が終わった後に色々な活動ができることは素晴らしいと思いました。

マリー・チルコト：
教師の視点から見ると、日本の学校（学生）は先生に対して



ハンナ・クイスガードさん

とても尊敬の念をもっていると感じました。先生が教室に入ってくるとき、生徒が全員起立しておじぎをしている姿を見たときは、本当に驚きました。この点はアメリカとは全く違います。

市長：
ケリーにも（外国語指導助手として、平成21年8月～24年3月まで蕪崎東・西中学校に赴任）帰国する際に聞いてみたら、アメリカと日本の学校は、授業の仕方が全然違うと驚いていました。ところで、京都はいかがでしたか？

一同：
とても蒸し暑かった。

ハンナ・クイスガード：
でも、日本の一つの都市の中で、色々な日本文化が見られてうれしかった。そして、とても良かったです。

市長：
日本の食事はどうですか？

一同：
とてもおいしいです。

市長：

ホストファミリーの皆さんが、一生懸命考えて、食事を作ってくれているからなのかな。ロバートは坂井のお祭りにきていたよね。お祭りも日本の一つの文化だけど、どうだった？

ロバート・ギルバート：

とてもおもしろかった。アユのつかみどりも体験したけど、釣りのスタイルも全然違って楽しかったです。

市長：

堀田さんと戸島さんも、フェアフィールド市に行ってみて、何か感じたことがありましたか？

戸島南那：

やっぱり文化が違っていて、少しビックリしました。食事の扱いなども、日本ではもったいない精神なんです。向こうではビュッフェスタイルでの食事のときに、ちよつと席をはずすと片付けられたりしていて、もったいないと思いました。

市長：

量も違うよね。

戸島南那：

日本では、お米の一粒一粒を残さず食べなさいと言われるんですが、アメリカでは残っているのが当たり前でした。



ジョーダン・ダニエルズさん

市長：

ジョーダンは日本に来てからの感想は何かある？

ジョーダン・ダニエルズ：

とても感動したのと、たくさんの方がいて驚きました。あと、京都に行って、たくさんのお像があるのを見て、すごいなと思いました。

市長：

リアナはどう？

リアナ・ソリス：

たくさんの方があって、一言では説明するのがむずかしいです。

市長：

もう少し、こういうことをプログラムに入れて欲しいということはある？

ジョーダン・ダニエルズ：

学校で学生と接する時間ももう少し欲しいなと思います。

市長：

戸島さんや堀田さんのときも、学校訪問はあったよね？フェアフィールドの学生と交

流する機会はあったかな？

戸島南那：

どちらかといえば、華道部とか茶道部とか、一部の学生との交流が主でした。私の家では、母と小学校にも来て欲しいなという話を良くします。中学校訪問はプログラムにあります。小学校はプログラムにないので。

市長：

学校訪問ではある程度英語が話せない大変かな？

堀田瑞希：

向こうに行ってみて、言葉が通じない場合でも、まわりが楽しくしてくれたり、こちらに興味をもってくれたりとかで、話す内容に困ることはなかったですね。

英語力はあまりなくても、

まわりが助けてくれたりして、学校訪問は楽しかったですね。

市長：

今後、そういう時間をつくることはできるかな。



マリー・チルクートさん

企画財政課長：

来年から順番で、小学校を訪問する機会を設けたいと考えています。

一同：

東京にももう少し長くいられたらいいなと思います。できれば東京に一泊して、大江戸博物館に行ってみたいと思いました。

市長：

広島印象はどうでした？

マリー・チルクート：

原爆ドームを見て、悲しくて泣いた子もいます。戦争とはいえ、アメリカがしたこと

市長：

日本で、とくに行ってみていところはありますか？

一同：

どこに行ってもいいところばかりで、何をしても本当に楽しいです。

市長：

日本は春夏秋冬の四季があつて、住むにはいいところだけど、地震や水害などの自然災害も多い国です。でも、日本を気に入ってくれて本当にありがとう。

留学生へのメッセージ

ところで、12月には日本の学生がフェアフィールド市を

訪問します。今回の経験を活かして、どのようにお迎えしてくれますか？

一同：

何の心配もせずに、まかせてください。

ハンナ・クイスガード：

日本人からすればサブライズもたくさんあるので、ビックリしないで、あまり動じずに楽しんでください。

ジョーダン・ダニエルズ：

何も恐れずに、色々なことにチャレンジしてください。

ハンナ・クイスガード：

語学力はあまり気にせず、一つの単語が話せば大丈夫なので、黙っているよりは、積極的に話しかけてください。

市長：

堀田さんや戸島さんは留学の経験者として、新たに行く学生の皆さんに伝えておきたいメッセージがありますか？

戸島南那：

中学生が高校生かにもありますが、高校生だと結構宿題が大変で、私の場合はアメリカに行ってから部屋にこもって勉強をした経験があります。

いま考えると、もちろん宿題も大切ですが、せっかく向こうにいる時間をそれに使う

のももったいないと思いますし、今度行く皆さんは、できるだけ早く宿題を終わらせて、アメリカでの時間をフル活用して、いろんな経験や会話を楽しんでもらいたいと思います。

堀田瑞稀：

私は、アメリカに滞在しているときに、毎日日記を書いていました。いまになって読み返してみても、向こうにいるときにしかない感情であったり、色々な体験などが記されているので、いまでもとても大切なものになっていきます。自分が経験したことを残しておくと、将来大人になったときでも、昔はこういうことがあったなと、思いあこすものにもなると思うので、皆さんにもぜひ勧めたいと思います。

市長：

フェアフィールドの皆さんは、残り一週間のプログラムとなりました。体調には充分注意して、楽しく、有意義に過ごしてください。

12月には蕪崎市からの交換留学生がフェアフィールド市を訪問しますので、どうかよろしくお願いします。

本日はありがとうございます。

蕪崎市の皆様へ...

私たちが温かく迎えていただき、市長をはじめ、蕪崎市民の皆様から感謝申し上げます。

...マリー・チルコト

蕪崎市を第二の故郷と呼べるくらいの、たくさんの経験や思い出ができました。

...ロバート・ギルバート

たくさんの思い出を与えていただき、蕪崎市の皆様に心からお礼を申し上げます。

...パーカー・オニール

すべての皆様に、心から感謝の気持ちを伝えたいです。

蕪崎市を日本の故郷と思い、今回出会えた人々に、再度会いにきたいです。

...ハンナ・クイスガード

蕪崎市には自分の家がありませんが、また帰ってきたい...そんな気持ちです。

...リアナ・ソリス

12月にフェアフィールド市に留学される学生の皆さん、心から歓迎いたします。

...一同より



帰国あいさつ後、ホストファミリーや関係者の皆さんとともに・・・7月30日 市役所庁舎前広場にて

米カリフォルニア州
フェアフィールド市
へ行こう！



姉妹都市フェアフィールド市との交流のため、市内在住の中学・高校生を対象にフェアフィールド市へのホームステイ派遣事業を実施します。

■期間《23日間を予定》

12月22日(土)

～平成25年1月13日(日)

■募集人員《予定》

中・高校生6名

■募集期間

9月3日(月)

～9月19日(水)

■参加者負担金

15万円程度(過去実績)

■お問い合わせ・お申し込み

国際交流実行委員会

企画財政課企画推進担当

(内線357)

※HPでも派遣要項をご覧になれます